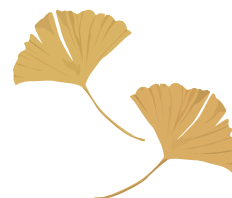


社団法人日本自閉症協会
奈良県支部ニュース

絆

きずな

第69号 11月号
購読料1部100円
(会員は会費に含まれています)



発行：社団法人日本自閉症協会 発行責任者：穴戸良朗
支部長&事務局：河村舟二 〒639-1055 大和郡山市矢田山町84-10
TEL&FAX 0743-55-2763

<http://www.eonet.ne.jp/~asn/>

自閉症対策における中央行政の動向について (平成15年度中央研修に参加して)

100頁ちかい資料をいただき、厚生労働省の方からは、障害者基本計画・障害者プラン・障害者地域生活推進特別モデル事業・国立コロニーの独立行政法人化・自閉症・発達支援センター・地域の支援体制づくりの説明を受けた。ここでは全体的な感想をのべるにとどめるが、国が新しい財源を確保し、この裏付けにより、これまで以上に積極的な新しい福祉政策を押し進めるというのではなく、現財政の逼迫と将来の税収の増加が見込めないなかで、行政改革の一環として既存事業の整理再編をするということのようである。つまり部屋の広さは何ら変わらない中で、家具の配置換えや整理によって住みやすくしようというような感じである。事業一つ一つの目的はすばらしいが、具体化のための完全な保証はなく、地方分権改革の名のもと、各市町村に押しつけられようとしている。奈良県内の地域間格差と福祉への取り組みの温度差が心配である。

もう一つは、文部科学省から特別支援教育の推進計画である。これまでの、障害の程度に応じ特別の場で指導を行う「特殊教育」から、障害のある児童生徒一人一人の教育的ニーズに応じて適切な教育的支援を行う「特別支援教育」への転換を図る。というのである。特別支援教育では、これまでの特殊教育対象者だけでなく、LD、ADHD、高機能自閉症をもふくむため、義務教育段階での対象者は全学齢児童生徒の全体の約7～8%（現在1.5%）にのぼるというのである。そのため、

対象児童生徒は地域の小中で特別支援教育をうけさせることになる。そして、小中学校の児童生徒の担当教員や保護者への相談と支援を行う特別支援学校（仮称）を作り、一般の小中に支援するとともに、教育支援の必要性が高い児童生徒を専門にみる機関としての地域の教育センター的役割を担う学校を設けるというのである。これを、従来の各養護学校をもって充てようとの考えである。これも、金をいかにかけないで、模様替えで乗り切ろうとするもののように感じた。本当に自閉症児の教育効果が上がるものか注意深く監視していかなければならないと思った。

河村



会員紹介（療育部編）

上田 真吾（うへだ しんご）5歳

父、母、弟（2歳）の4人家族です。

4歳で保育園の担任から専門機関の受診をすすめられ、広汎性発達障害と診断され、6歳で高機能自閉症と診断されました。不器用だったり、集団の中では皆と一緒に行動できない時があったり、時間や気持ちの切り替えがなかなか出来なかったりするため、4歳から加配の先生を1人つけていただいています。また、4歳から仔鹿園で月1回ポータープログラムをうけ、認知の弱さや不器用さが少しずつですが、改善されてきました。保育園では、県立リハビリセンターの定期受診や仔鹿園にも担任の先生と一緒に来てくださったりして真吾の理解に努めて下さっており、クラスのお友達もクラス替えがなく3年間一緒なので真吾のことをよくわかってくれて、真吾も楽しく通っています。そのためか真吾もお友達を思いやる気持ちが少しずつ育っているように思います。この間、お友達が先生に叱られている時に「先生が悪い！」と先生にくっついてかかり、お友達をかばおうとしたそうです。ちょっと的外れだったのですが、来年は就学の問題があるので、地域の小学校で障害児学級か普通学級にするか悩んでいるのですが、来年から真吾の行く学校は特別支援教育に移行していくとのことで、ますます悩んでいます。どういう形になっても真吾にとって一番良い方法がとれるよう考えていきたいと思っています。今後の課題はボーダーのためか療育などの支援してくれる所がないので、どう開拓していくかです。どこの相談機関でも保育園に行ってるのだからとかボーダーだからという理由で「療育はいらない」と言われ続けました。ポーターも知人から紹介してもらいました。協会で色んな情報を教えていただければ嬉しいです。電車が好きで、本を読むのが大好きな真吾と親子共々よろしくお願いします。



療育部活動報告

毎年恒例となってきたポニーの里での乗馬体験今年も2日間に分かれての日程となりましたが、残念な事に2日目の11月3日は雨の為、中止となりました。

11月3日に参加予定されていた皆さん、又、次回をお楽しみにしていて下さい。11月2日に参加された藤田さんの感想をご紹介します。

親子で初めて参加させて頂きました。馬に乗るのは私も6才の涼雅も初めての経験で、どんなかな?!とワクワクドキドキ!!行ってみて、馬に乗る時、安全の為ヘルメットをつけなければいけなくて、普段、帽子をかぶるのも嫌がる子供なので、どうかなあ~と思っていたら案の定ヘルメットを見せただけでかんしゃくを出してしまい、何回かチャレンジしたもののダメで一人では乗れませんでした。が、私と涼雅と一緒にいたらヘルメットがなくても良いと言う事だったので、それで乗ることが出来ました。一回目は、恐かったのか? 暴れたりしましたが、少し時間をおいて二回目に乗った時は、暴れる事もなく馬に乗りながら、輪投げやポニーの里のお兄さんとボールの投げ合いもする事が出来、すごーく感激でした。また、ひとつ良い経験が出来たと喜んでいきます。次回は、ヘルメットをかぶり一人で乗れる事を目標にがんばりたいです。

藤田 涼雅

母 美穂

療育部 部会報告（施設見学）

10/23日(木)「コミュニティワーク こっから」へ見学に行ってきました。建物の中へ入ると木がふんだんに使われていて、とても温かな印象です。壁にも木を使っているのは自傷行為のある人のことを考えてだそうです。「食堂」や「仲間の部屋」も広く開放感のある明るい雰囲気でした。

作業所はリサイクル班、パン工房班、紙漉き班、下請け作業班があり、皆のそれぞれのペースに合わせて仕事を分担し、有意義に作業をしているという感じでした。中でもパン工房班のパンはおいしいと評判だそうです。喫茶コーナーで食べて帰

った金本さんは「もちもち感が最高！」と絶賛していました。

施設長の藤井さんが開所するまでの苦勞されたお話は、勉強になり、考えさせられました。自分の子供が施設に入るのは、まだ少し先のことですが、その時入る施設はあるのだろうか？自分達作らなくてはいけないのだろうか？など考えると、これからお金をためていろんな勉強をしなくては……とつくづく感じた一日でした。

療育部 石黒 順子

成人部三杖村三季館

キャンプボランティアに参加して

松本典子

松本雄介の家族（姉）として、またボランティアとして参加 させていただきました。こうしたイベントに参加する機会が少ないため、さまざまな即面で勉強になりました。関係者の皆さまに、まずはお礼を申し上げます。

今さらながらに感じたことは、自閉症とひとこと言っても みなさんが実に個性的であることでした。安心できるポジション、

好き嫌い、動作のテンポ……鮮やかな十人十色で、人とは本来 いろいろなのだと改めて気づかされたような気がいたします。

その一方で、とても似ている部分——自閉症という疾患の病状と 捉えるといいのでしょうか？——も感じられ、弟ひとりを見ている だけでは気づかなかった共通項をおぼろげながらも知ることが できたのが貴重な体験でした。

ボランティアのみなさんは、初めて自閉症者に接したという方も 少なくないと思います。どう接していいものかと戸惑われたことも 多いことでしょう。私も弟以外の方たちと接する機会がこれまでは あまり多くはありません。

少ない経験の中で考えたことは、「突き詰めれば、これも人と 人との自然なつきあいである」ということと、同時に「それぞれの パターンを、とにかくひとつひとつ把握し理解するべきで、公

式は ない」という一見相反するようなことです。そしてまた、“個性”と“疾患としての特徴”を把握していくことで、つき合い方も 見えてくるのでは？とも考えています。

どうか、長い目で彼らを見てあげていただきたいなと思います。

次回も是非、続けて参加していただき、もっともっと彼らを知っていただければと切望します。

☆高機能自閉の男子の手記

『ぼくとクマと自閉症の仲間たち』

について

西田です。感想を述べます。高機能自閉の大人の女性の手記は、ドナ・ウィリアムズの『自閉症だったわたしへ』新潮社や、テンプル・グランディンの『自閉症の才能開発』学習研究社、グニラ・ガーランドの『ずっと普通になりたかった』花風社、ウエンディ・ローソンの『私の障害、私の個性』花風社等があります。

これらの本を読むことで、自閉の人の内面や考え、異文化をかなり理解することができました。私達が一番大切にしなければならぬことは、「これらの人の持つ異文化を私達が理解して、私達が彼等の世界に寄り添っていくこと」です。

これは、自閉の人にだけではなく、AD/HD や LD の人にも言えることです。もっというならば、すべての人は、その人固有の感じ方や考え方を物を持っているのですから、「みんなちがって、みんないい」のです。自分と考えや感じ方が違うのに、他の人と無理に同じように合わせようとするから、ストレスやいじめが起こるのです。日本も、100年前の詩人の金子みすずさんの『みんなちがって、みんないい』の詩が小学校の国語の教科書にも載るようになり、やっと「違いが分かる。評価できる。」所までなり始めました。

今回10月に出版されたアメリカの、トーマス・A・マッキン著『ぼくとクマと自閉症の仲間たち』

花風社、1600円＋税は、めずらしく男の人の手記です。男の自閉の人と女の自閉の人とは、少し感じ方が違う所もあります。知覚過敏の所等は、他の人の手記よりは強いようです。この本で記述されている、感覚的な過敏さなどについては、私を感じてきた中身と、かなりにていますので、高機能自閉の人たちと、付き合う場合にはとても参考になります。また、男子の高機能自閉やアスペルガーの人は、ぜひとも読んで欲しいです。関係者の皆さんも、是非とも一度読んで欲しい本です。

最初の章は、やや読みづらいですが、現在彼はアメリカの自閉症協会の役員をして、講演活動などを行っています。何ともすごい、頼もしい人が出てきたものです。一読をお薦めします。それから、簡単に読めてアスペルガーの本人に納得できる『あなた自身のいのちを生きて（アスペルガー症候群・高機能自閉・広汎性発達障害への理解）』グニラ・ガーランド著 クリエイツかもがわ 500円＋税 が最近出版されました。大人のアスペルガーの人に読んでもらったら「読みや



奈良県支部所蔵・収録ビデオ追加リスト と 所蔵ビデオテープの貸し出しについて

☆奈良県支部主催の講演・講座を記録としてビデオ収録してきました。会員の皆様でご希望がありましたら、テープを貸し出ししています。

[貸し出し方法]

◎原則

- ・部会等の支部の集まりにご参加の時に手渡し
- ・ダビングは禁止
- ・返却は次回の集まりの時に必ず。
- ・貸し出し・返却ともご都合の付かないときは郵送もOKですが、送料は個人負担をお願いします。
- ・貸し出希望者は 集まりの前に電話で 希望のテープをお申し出下さい。

○問い合わせ・連絡先

療育部 東郷 電話 0742-47-4546
事務局 上島 電話 07443-2-6630

☆2000年4月からの追加リスト

No.8 第4回 定期総会 記念講演

「きのう、きょう、あした」 田川 良一
H13.4.22

No.9 自閉症理解のための 基礎講座1

「自閉症の基礎理解」 村松 陽子
H13.7.14

No.10 自閉症理解のための基礎講座2

「自閉症の人への 伝え方」 野畑 光代
H13.7.28

No.11 自閉症理解のための基礎講座3

「自閉症の人のコミュニケーション」
井深 允子 H13.8.11

No.12 自閉症児者支援実践講座1

「自閉症児者の行動上の問題への対処」
岡田 眞子 H13.9.8

No.13 自閉症児者支援実践講座2

「自閉症児教育の歴史と自閉症児問題」
堀 智晴

「ガイドヘルパーの活動を通して」

香山よし 13.10.1

*2000年3月以前のNo.1～No.7までのテープも貸し出しています。

支部HPでレジュメを公開中、詳しくは 役員まで。

*No.9～No.13は 平成13年度の社会福祉・医療事業団助成金による自閉症児者支援ボランティア養成事業

No.14 第5回 定期総会 記念講演

「共に生きるまちづくりをめざして！
ゆめ・ゆとり・ゆうき」

桂 良太郎 H14.4.28

No.15 「自閉症スペクトラムの理解と支援」

門 眞一郎 H14.9.14

No.16 「自閉症スペクトラムの理解と支援

～行動上の問題を中心に」

岡田 眞子 H14.12.8

No.17 第6回 定期総会 記念講演

「ちょっとした生活の工夫
一楽しくなくっちゃ暮らせないぞ！」

中谷 正恵 H15.4.27

＊これ以下は、今年の「自閉症児者の生活支援と家族交流事業」の講演

No.18 15年度助成事業 第1回講座

「自閉症の理解」

飯田 順三

「ダダくんの暮らしー本人を真ん中において
たらこうなったー」

奥平 綾子 H15.7.6

No.19 15年度助成事業 第2回講座

「自閉症の人との コミュニケーション」

生涯を通して自閉症の人と楽しくすごすた
めの提案と実践

養護学校での実践 野畑 光代

地域小学校での実践 浅井 郁子

H15.7.26

＊第3回・第4回ビデオ収録テープも作成中です。
自閉症児者の生活支援と 家族交流事業について
7月から始まった事業も 講座・第4回までキ
ャンプ・2回・そして映画上映と 皆様のご協力
のおかげで無事、進んでまいりました。

前回・10月25日(土)の第4回講座は、ご
案内していた関宏之先生から大阪市障害者就業・
生活支援センター所長の小林茂雄先生へ講師交代
になりましたが、たくさんの資料とともに分かり
やすく、就労支援のお話をして下さいました。長
年、おしまコロニーにいらした先生のご経験から
くる、障害者の支援についての感覚が、自閉症の
人の保護者にもとてもぴたりくるものでした。
その中でも先生がお話されたエピソードがとても
心に残っています。 コンビニのアルバイト店員
の学生さんが 毎回、買い物に来る自閉症の人が
買ったプリンスプーンを最後に袋に入れるまで、
パニックにならずに待つ事がとても困難な事に気
づき、まず、会計より先にスプーンを渡すという
とても簡単な事で対処してくれたそうです。生活
支援はそんな特別な難しい事ではないと 心が軽
くなる講演でした。 午後からは奈良県支部の堀
智晴先生の講座で以前のアンケートを下に私たち
の身近な問題が浮き彫りにされ、後半は会場の参
加者の意見、考え感想とが飛び交う、特別な時間
でした。

次回の講演は 11月30日(日)・場所は今回、
奈良県橿原の文化会館です。

○講師の先生は 中山清司氏

自閉症者の地域生活を援助する“V I S U A L”
仲町台発達障害センター

社会福祉法人 横浜やまびこの里本部

奈良県支部の第2回の定期総会講師でした。

横浜でのジョブコーチやグループホームのビデオ
がとても特別なものにみえました。去年、ノース
キャロライナへ研修に行かれたとお聞きしていま
す。

○奥平俊六氏

「ダダ父通信」の作者

教育と地域支援の話をお願いしています。

ダダ父通信は、奈良県支部の保育でも参考にさ
せてもらってきました。

今回の午後だけの保育も担当者は個別に支援を
考えてくださっています。

どうぞ 皆様のご参加を お待ちしています。



事務局からの お知らせ

★平成15年度第2回強度行動障害について理解
を深める会研修会

テーマ：

行動障害を示す人へ望ましい支援について

講 師：鉄道弘済会

弘済学園 指導課長 三島阜穂 氏

1 目 的

日々障害児(者)の生活や活動を支援されてい
る人達に対して、その実践に直結した内容につい
て研修する機会を提供し、自己評価できる実践力
を高めて頂くことにより、奈良県における強度行
動障害の問題に迫り、その処遇の質的な改善を目
指す。

2. 日時：平成15年11月15日(土曜日)

受付：13:00～13:20

講演：13:20～16:00

3. 場所：

- ・奈良女子大学 文学部北棟（N棟）103教室。
- ・奈良市北魚屋東
- ・電話番号 0742 - 20 - 3213

近鉄奈良駅より徒歩6分

4. 参加費：1000円

5. 定員：100名

6. 申込締切：平成15年11月8日（土曜日）

7 申込先：奈良県重症心身障害児（者）を守る会 動く重症児部会事務局 〒630-0221 生駒市さつき台2丁目450-90 山村義和 TEL・FAX 0743 - 76 - 7832

8. 主催：

奈良県重症心身障害児（者）を守る会
共催：社団法人奈良県手をつなぐ育成会
・社団法人日本自閉症協会奈良県支部

参加申込書 fax様式

氏名 住所 電話番号 所属

☆11月22日23日 療育キャンプ

（大和高原いこいの村）

☆11月30日 第5回生活支援講座

（奈良県橿原文化会館）

☆日本自閉症協会近畿ブロック会議の案内

日時：平成15年11月24日（月）

午前10時～午後4時

場所：エル大阪（大阪府立労働センター）

7階706号

大阪府中央区北浜東3番14号

TEL06-6942-0001

議事：NHK障害福祉フォーラム、自閉症の講演会について・自閉症発達障害支援センターの動向、近畿ブロック各支部の在り方、意見交換、交流各支部より、支部長・役員・事務局のかた数名ご参加下さい。昼食は近所のレストランで皆様と一緒にしたいと思います。

（大阪支部：大橋一予 TEL 0729-93-5501）

※参加していただける奈良県支部の方河村に連絡をお願いします。

☆平成15年度厚生労働科学研究発表会開催の

ご案内

厚生労働科学研究 主任研究者 石井 哲夫

「高機能広汎性発達障害の社会的不適応とその対応に関する研究」

平成15年度研究発表会開催のご案内

今般、標記研究の研究発表会を、下記のとおり開催いたします。参加を希望される方は、社団法人日本自閉症協会事務局までお申込み下さい。

なお、交通費・昼食などは自己負担となりますのでご了承ください。

記

日時：

平成16年1月11日（日）

10:00～16:00

場所：こどもの城 9階研修室 902～904

〒150-0001 渋谷区神宮前5-53-1

TEL 03-3797-5677 Fax 03-3406-7805

内容：

各分担研究者より平成15年度の研究内容の発表。発表者予定

※予定ですので、変更の可能性もあります。

・石井哲夫（日本自閉症協会会長・白梅学園短期大学）
・山崎晃資（日本自閉症協会理事・東海大学）
・太田昌孝（日本自閉症協会理事・東京学芸大学）
・須田初枝（日本自閉症協会副会長・けやきの郷）
・栗田廣（東京大学）
・白瀧貞昭（武庫川女子大学）
・杉山登志郎（あいち小児保健医療総合センター）
・清水康夫（横浜市総合リハビリテーションセンター）
・辻井正次（中京大学）

参加費：無料

定員：70名（先着順）

その他：昼食は、会場付近でご自由にお取りください。

なお、こどもの城ホテルの宿泊予約を取ることができた方は、下記事務局山本までご連絡ください。宿泊料を割引してもらえることがあります。

申込み：下記事務局へお名前・〒・住所・TEL・Fax・所属を明記の上、Fax又はE-mailでお申込み下さい。定員を超えた場合は、その旨ご連絡いたしますので、連絡がない場合は、当日直接会場へお越しください。

【申込み・問い合わせ先】

社団法人日本自閉症協会 事務局 山本宛

〒162-0051 東京都新宿区西早稲田2-2-8
TEL 03-3232-6478 Fax 03-5273-8438
E-mail asj@mub.biglobe.ne.jp

☆思春期編 メッセージおよび作品の募集にご協力をお願いします。

現在、出版部ではガイドブック編集企画委員会の協力をいただいて自閉症ガイドブック シリーズ3 思春期編を企画・編集しております。その中に、シリーズ1,2では本文の合間に、皆様からお寄せいただきました関連するメッセージと子どもたちの作品を挿入して、内容に広がりゆとりを持たせ、とてもよいとの感想をいただきました。シリーズ3「思春期編」も同じ意図で下記の要領でメッセージと作品を募集いたします。いただいたメッセージと作品を本文にあわせて編集して掲載させていただきます。ちょっとした助言が勇気を与え、改善につながる場合があります、奮ってご投稿下しますよう、よろしくお願い申し上げます。

1、思春期にあるまたは迎えようとしている自閉症の人、その親、きょうだいに、励ましやヒントになるメッセージを200文字から400文字程度にまとめください。

2、カット、イラスト・・・白黒で印刷して映える絵画やイラスト。

なお、ご投稿の際、サンプルのようにご投稿者のお立場などクレジットをつけてください

○サンプル 学齢期編 163頁より

「てんかん発作は思春期に起こりやすく、また近頃は、自閉症の人は25歳すぎても起こすことがあるといわれていますが、息子はそのとおりになりました。

・・・(中略)・・・

信頼できる精神科医の存在はいつ発作を起こすかわからない子どもをもつ親にとって、とても心強いものです。(39歳男子の母)」

締め切り：2003.11.30

送付先：下記に郵送、FAXまたはE-Mailにて
日本自閉症協会 出版部宛

〒162-0051 東京都新宿区西早稲田2-2-8

電話：03-3232-6478

Fax：03-5273-8438

E-mail：asj@mub.biglobe.ne.jp

☆奈良県障害者保健・福祉フォーラム in

奈良・2003

テーマ

「県の障害者計画に私たちの願いを！」奈良県の「障害者長期計画2005～ともに生きる～」をみんなで考えよう！

主催：奈良県障害者協議会

事務局：

奈良教育大学附属小学校障害児学級
Tel0742-27-9284

日時：2003年12月6日(土曜)

13:30～17:00

会場：エルトピア奈良・大会議室

(市内循環バス・八軒町下車すぐ)

内容：

奈良県の障害者長期計画策定にむけて…奈良県障害福祉課長 三毛典明氏。

滋賀県の障害者計画策定のとりくみ…滋賀県障害者施策推進協議会委員 渡辺武氏

意見交換、まとめ：奈良県障害者協議会副代表

玉村公二彦氏

☆第33回奈良県手をつなぐ育成会研究大会

(生駒市大会)

開催日時：平成15年12月一四日(日)10:00～15:30 受付9:20

場所：生駒市中央公民館(メイン会場)

生駒市コミュニティセンター(セイセイビル)

参加費：1,500円

申し込み締め切り：11月18日(火)

事務局Tel 0744-29-0150fax0151

編集後記

11月にはいって近くの公園の木々も一斉に赤や黄色に染まり始めました。日本の秋を楽しみ、愛でましょう。

支部ニュースについての感想、ご意見等がありましたら、穴戸(0742-49-3855)までか、または、最寄りの支部役員までお願いします。